

第六十三回 人 権 作 文 第五十三回 人 権 絵 画 ・ 版 画 募 集 要 項 第四十九回 統 計 図 表

奈良県の同和教育実践の財産として、「人権作文」の取組があります。

厳しい差別の中にあって、その不合理・矛盾に気づく機会さえ十分に保障されなかった部落の子どもたちに、自らの「くらし」をみつめさせること、考えさせることを通して、事実を事実としてみる力を育て、社会の不合理・矛盾に鋭く迫る力量を、と願ってきた先輩たちは、その道筋を「生活つづり方」に、あるいは「生活版画」にもとめてきました。

一九五四年以降、県内の学校では、こうした取組を積極的に展開し、それぞれ「人権作文集」としてまとめてきました。奈良県同和教育研究会（旧奈同教）は、一九五九年から毎年、各郡市人（同）教・学校での取組を集約し、これを「人権作文集」として編集・発刊してきています。

さて、「人権作文集」は、『くらしをみつめる子ら』というタイトルが示すように、子どもたちの日々の「くらし」の中から、「しごとや労働」「人権」「なかま」などの問題に関して、自分の経験やできごとをふりかえり、ありのままの姿や願いをつづたものでなければなりません。決して、決意表明であったり、スローガンを書き並べたりするものではありません。

したがって、日々の取組の中で「つぶやく」「つづる」子どもたちの生の声こそ、その価値があるといえます。日常のくらしの中から生まれる作品を数多くお寄せください。

奈良県人権教育研究会 会長 浅井 克哉

郡市町村人権教育研究会
市 町 村 教 育 委 員 会 様
学 校 ・ 園 ・ 所 長 ・ 学 級 担 任

人権作文の部

1. 応募期間 二〇二二年一月十四日（金）まで（厳守）
2. 応募先 奈良県人権教育研究会
3. 応募方法 作文には、郡市名、学校・園・所、学年（歳児）、名前を明記し、各郡市人教に提出してください。
（原則としては、人権作文集には年齢、学年のみ掲載します）

4. 用紙・枚数 自由
5. 人権作文の視点

（１）普遍的な人権課題

- ① 労働の喜びや課題、貧困について気づいた
- ② ともだちや家族、地域の人のぬくもりや力強さを感じた
- ③ くらしや家族、学校、地域社会に存在する不合理や矛盾を感じた
- ④ 偏見や決めつけに対する怒り
- ⑤ なかまはずれや集団等からの排除による悲しみや怒り
- ⑥ 生や死に関わることでいのちの尊厳を感じた

（２）個別の人権課題

- ⑦ 部落問題 ⑧ 「障害児」「障害者」差別の問題 ⑨ 在日外国人問題
- ⑩ 反戦・平和や環境などに関わる問題 ⑪ 「性」やジェンダーに関わる問題
- ⑫ 感染症（ハンセン病、ＨＩＶなど）に関わる問題 ⑬ 規則、きまり、法律に関わる問題
- ⑭ 沖縄やアイヌの人に関わる問題 ⑮ 刑を終えて出所した人に関わる問題
- ⑯ 外国との関わりに対する問題 ⑰ 高齢者 ⑱ その他
6. その他 保育所（園）・幼稚園・子ども園では、子どもの「つぶやき」を文字にして人権作文にしてください。

人権絵画・版画・図表の部

1. 応募期間・応募先・内容は、作文の部と同じです。
2. 作品の大きさは自由です。 ※実物ではなく、写真やデータ形式でもけっこうです。
3. 出展された作品の中から数点を『くらしをみつめる子ら』に載せます。

人とかかわりで考えたことや感じたことを書く

家族のこと

- ・ あなたがおうちの仕事をし、そのことで、おうちの人との心のふれあいがあった。
- ・ おじいさんやおばあさんから、していた仕事の話を聞いた。
- ・ おうちの人の仕事の様子をよく見て、心をうたれたことがあった。
- ・ 仕事から帰ったおうちの人のいつもとちがう様子をみたことがあった。
- ・ 家族が、今までしていた仕事をやめて、新しい仕事についたことがあった。
- ・ きょうだいがしたこと、家族の心がふれあったことがあった。
- ・ 家族のことで、心配したり、気にかかったりしたことがあった。
- ・ 遊びやともだちのことで、おうちの人に心配をかけたことがあった。
- ・ 家族のくらしぶりを見て、疑問に思ったことがあった。
- ・ おうちの人たちが、あなたに対して、どのような愛情をもっているかがわかったことがあった。
- ・ おうちの人たちが、自分の仕事を大切に行っていることを知ったことがあった。
- ・ 体験を通して、働くことのきびしさを学んだことがあった。

ともだちのいっしょ

- ・ ともだちのやさしさにふれたことがあった。
- ・ ともだちのことを気づかい、自分からともだちのために、進んでしたことがあった。
- ・ 学校生活の中で、くやしい思いをしたことがあった。
- ・ 自分が思ったり、感じたりしていることで、クラスのみんなに知ってほしいことがあった。
- ・ ともだちを無視したり、無視されたりして、そのことについて、深く考えたことがあった。
- ・ ともだちとけんかして、そのことについて深く考えたことがあった。
- ・ ともだちと助けあって、ひとつのことをやりとげたことがあった。
- ・ 学級会などで、自分が言にくいと思っている意見を、思いきって言ったことがあった。

社会のいっしょ

- ・ おじいさん、おばあさんから、戦争について、話をきいたことがあった。
- ・ 地域に住むいろいろな人たちと、行動を共にすることなどを通して、みんなが共に生きていく社会について、考えたことがあった。
- ・ 地域にある工場や商店などで、働く人の姿を見て、働く人と心がふれあったり、深く考えさせられたりしたことがあった。
- ・ 授業で、学習したことで、現実のようすとくらべて、疑問を感じたり、さらに、くわしく自分で調べたりしたことがあった。
- ・ テレビや新聞、インターネットなどを見て、疑問に感じたり、自分から進んでやれることを考えたりしたことがあった。
- ・ テレビや新聞、インターネットなどを見て、日本と、世界の国々とのつながりについて、考えたことがあった。

つづり方を書くときに気をつけること

- ① ある日、ある時（短い間）にあった出来事のうちの、その中で特に心に残った一つのことを（自分で選んで、いつ、どこでがわかるように）
- ② 実際にみた、きいた、したことを、（実際に目、耳、鼻、体を働かせたことを正直に）
- ③ 順序に気をつけて、（時間通りに、起こった順に）
- ④ ていねいに、よく思い出して（そこにいる人の動作、様子、会話、しぐさ、顔色、その場のふんいき、空気、そこにある物の様子、色、動き、におい、形、大きさ、かたさ、味などとも思い出しながら）
- ⑤ 「くした」「くしました」で終わる文で、
- ⑥ クラスのともだちや先生、家族、それから日本中の人にも「こんなことがありました」と教えてあげるつもりで、
- ⑦ ずっと思っていることより、その時に思ったり感じたりしたことがあるなら、それもわすれずに、
- ⑧ 説明がいるところは、説明もわすれずに、
- ⑨ できるなら、「書き出し」「組み立て」なども考えながら、
- ⑩ その出来事の始めから終わりまでを、（途中でやめないで最後まで）ぐんぐん書く。